

Luxman

STEREO POWER AMPLIFIER

M-200

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンのステレオ・パワーアンプリファイヤー M-200 をお求めいただきまして、誠にありがとうございます。

NHK がラジオの本放送を開始した 1925 年、錦水堂ラジオ部として創業されたラックスマンは、80 余年にわたって数多くの製品をオーディオファンや音楽ファンに届けてまいりました。その間、いつの時代にあってもオーディオと音楽を愛する人たちの熱い心は変わりませんでした。

音楽に込められたアーティストの情念を余さず忠実に再現する、そのときの感動の深さと機器への愛着の深さこそがオーディオにとっての最高の価値であると私たちは考えます。

縁あってラックスマン製品をお選びいただきましたことは、オーディオと音楽に対して私たちと同じ情熱と価値観を共有できることであると、心から嬉しく思っております。

本機を正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みください。それによって本機の性能が十分に発揮され、最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただくことができます。お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

目次

使用上の注意	1
本機の特徴	2
各部の名称と用途および設定方法	3
ディスプレイ・スイッチの設定方法	6
接続方法	7
ブロックダイアグラム	11
規格	12
修理に出される前に	13
アフターサービスと品質保証について	14

アンプの置き場所について

換気や放熱が充分行われる場所に設置してください。特に、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

通風孔について

天板・底板の通風孔は塞がないでください。なお、ラックなどへ設置する場合は、十分な空間を取り、扉は開放して使用し、他の機器を積み重ねたり、物を載せたりしないでください。故障の原因になります。天板の上部は 10cm 以上の空間を空け、左右は 5cm 以上の空間を空けてください。底板の下部には 4 本の脚の高さの空間を空けてください。

併用機器との接続時の注意

本機にコントロールアンプ、CD プレーヤー、スーパーオーディオ CD プレーヤーなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になることがあります。本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

スピーカー接続時のご注意

スピーカーシステムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖ 間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

電源オン後すぐには音が出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミュート回路が組み込まれているため、電源オン後すぐには音が出ません。このタイム・ミュート回路が解除されるまでに音量が上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。ボリューム・コントロールは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度な音量にセットしてください。

保護回路について

本機にはアンプやスピーカー保護のため、過電流検出、異常高温検出、DC ドリフト検出による保護回路を設けています。この保護回路が動作した場合、スピーカー端子への出力を中絶するとともに、オペレーション・インジケータが点滅し、本機がミュート状態に入ったことを表示します。保護回路が動作した原因が消滅するとオペレーション・インジケータが点灯し、動作状態に復帰します。保護回路がたびたび動作する場合には、弊社サービスセンターにご相談ください。

修理・調整について

修理・調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービスセンターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

本機の特徴

コンパクトな筐体設計

B4 書類サイズのコンパクトな 2 チャンネルステレオ・パワーアンプ。

プッシュプル出力段

バイポーラ・トランジスタによるプッシュプル出力構成。AB 級 25W + 25W (8Ω) の定格出力。

BTL 接続モード

本機を 2 台使用したハイクオリティ／ハイパワーなモノラルアンプ構成を実現する BTL 接続モード。

2 系統の入力セレクター

RCA アンバランス入力と、高品質なバランス信号伝送に対応する XLR バランス入力（ノイトリック製端子）との切替えが可能。

バランス入力位相切替え

海外製入力機器（コントロールアンプや CD プレーヤー）などの接続時に便利なバランス入力位相切替えスイッチ搭載。

ボリューム・ダイレクト機能

CD プレーヤーなどの入力機器を直結接続できるバリアブル（音量調節可能）入力モードと、音量ボリュームをバイパスするダイレクト入力モードを用意。

ハイイナーシャ電源

大容量の EI コアタイプ電源トランスとカスタム仕様の 5,200 μ F × 2 本のブロックコンデンサーを組み合わせた、ハイイナーシャ（高慣性）電源回路。

パラレル・スピーカーリレー

低抵抗値のスピーカーリレーを LR 独立のパラレル構成で搭載し、スピーカー出力ラインのインピーダンスを低減。

ショットキーバリア・ダイオード

電源整流回路にはスイッチング・ノイズが少なく直流電圧への変換効率の高い日本インター製ショットキーバリア・ダイオードを採用。

オリジナル OFC ワイヤー

内部配線は各芯スパイラルラップ・シールドと芯線の非メッキ処理で自然な信号伝送を実現した、オリジナルの OFC ワイヤーを採用。

ラウンド・パターン基板

デリケートな音楽信号の流れに配慮し、スムーズな電流伝送を実現するためのラウンド・パターン採用の基板配線。

7セグメント LED ディスプレイ

視認性に優れた 7セグメント LED を使用した多機能ディスプレイ（明るさ調節、スピーカーインピーダンス設定、ホールドタイム設定）を装備。

ループレス・シャーシ

シャーシ電流によるアース・インピーダンスの上昇をシャットアウトするループレス・シャーシ構造。

18mm ピッチ RCA 端子

大型のプラグを装着した高音質ケーブルにも対応する 18mm ピッチの RCA 入力端子。

大型スピーカー端子

極太のスピーカーケーブルも装着しやすく、Y ラグやバナナ端子に対応したインライン（LR 同一特性）レイアウトのスピーカー端子。

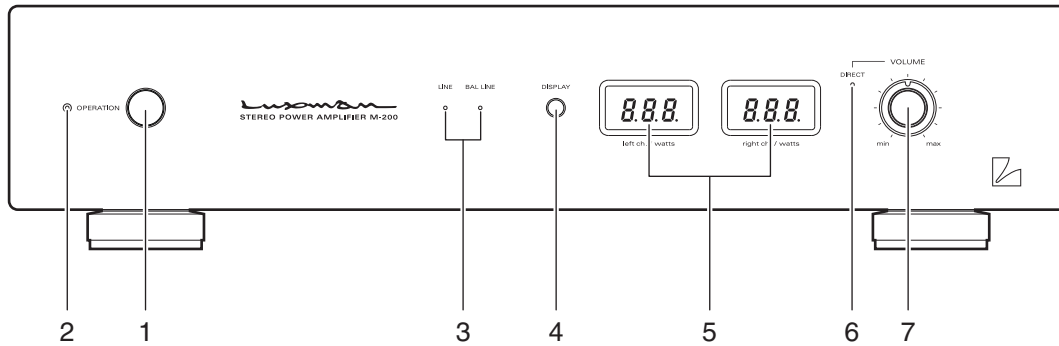
AC インレット

外付け電源ケーブルの装着を可能にする AC インレット。

電源ケーブル

ノンツイスト構造を採用し、聴感上の周波数のうねりを排除したラックスマン標準電源ケーブル JPA-10000。

本体正面



1. オペレーション・スイッチ (OPERATION)

電源をオン / オフするスイッチです。
配線、接続時には必ずこのスイッチをオフにしてください。

2. オペレーション・インジケータ (OPERATION)

オペレーション・スイッチをオンにするとタイム・ミュート中では点滅し、その後動作状態になると点灯します。

3. インプット・インジケータ (LINE / BAL LINE)

本体後面の入力切替スイッチ (LINE / BAL LINE) で選択されている入力を表示します。

4. ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY)

表示窓の明るさ調節、パワーメーターのホールドタイム設定、スピーカーインピーダンス設定を行うスイッチです。(6 ページの設定方法をご参照ください。)

5. 表示窓

出力レベル (W) を表示します。
また、各種設定を行うときには、設定値を表示します。

6. ボリューム・ダイレクト・インジケータ (DIRECT)

本体後面のボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE) で DIRECT を選択したときに、点灯します。

このインジケータが点灯しているときは、入力信号はボリューム回路を経由しませんので、ボリューム・コントロール (VOLUME) を操作しても音量は変わりません。

7. ボリューム・コントロール (VOLUME)

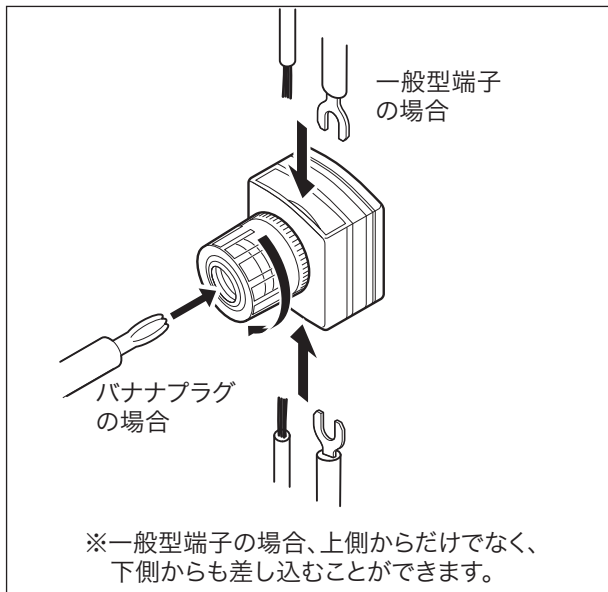
本体後面のボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE) で VARIABLE を選択したときに、音量を調節できるツマミです。左側へ回し切った位置では音が出ず、右に回してゆくと音量は徐々に大きくなっていきます。

本体後面のボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE) で DIRECT を選択し、CD プレーヤーなどの音量調節の機能しないダイレクト出力を入力端子に入力すると、常にフルパワー状態となり、スピーカーを破壊するおそれがあります。

これらの入力機器は、必ず音量調節機能のあるコントロールアンプなどを中継するか、本体後面のボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE) で VARIABLE を選択し、音量を小さく絞った状態でスピーカーから音が出るのを確認してから、好みの音量になるよう調節してください。配線の変更は必ず電源をオフにしてから行ってください。

12. スピーカー端子 (SPEAKERS)

RIGHT (R) 側に右スピーカーの端子を、LEFT (L) 側に左スピーカーの端子を、極性を合わせて接続します。BTL (BTL (MONO)) を選択したとき、本機はモノラル・パワーアンプになりますので、ステレオ再生を行うにはもう一台の M-200 が必要になります。右または左スピーカーの端子を () 内の表示に合わせて接続します。



13. AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源は AC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

14. 入力切替スイッチ (LINE / BAL LINE)

RCA アンバランス入力端子と XLR バランス入力端子の入力信号を選択するスイッチです。

15. ボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE)

入力信号がボリューム回路を経由しないで、直接パワーアンプ部に入力される (DIRECT) か、ボリューム回路を経由してからパワーアンプ部に入力する (VARIABLE) かを選択するスイッチです。

16. ステレオ / BTL 切替スイッチ (STEREO / BTL (MONO))

ステレオ (STEREO) を選択するとステレオ・パワーアンプとして動作します。

BTL (BTL (MONO)) を選択すると BTL 接続のモノラル・パワーアンプとして動作します。

メモリー・リセット

全ての設定を出荷時の設定に戻すには、以下の操作を行います。

- (1) 電源オフ状態にします。
- (2) 本体のディスプレイ・スイッチを押しながら、オペレーション・スイッチをオンにします。
ディスプレイ・スイッチをそのまま 5 秒以上押し続けます。

これで操作完了です。

工場出荷時の設定

項目	設定値
ディマー	HI (通常)
ホールドタイム	1 (秒)
スピーカーインピーダンス	8 (Ω)

ディスプレイ・スイッチの設定方法

ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) により、以下の設定ができます。

- (1) 表示窓の明るさ調節 (ディマー機能)
- (2) パワーメーターのホールドタイム設定
- (3) 接続スピーカーのインピーダンス設定

これらの設定は、電源を切ってもフラッシュメモリーに記憶されます。

(1) ディマー機能

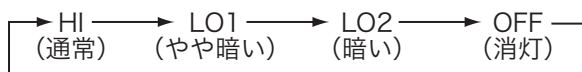
表示窓の明るさを調節します。

通常の点灯から消灯まで明るさを4段階 (HI、LO1、LO2、OFF) に切り替えられます。

オペレーション・インジケーター、ボリューム・ダイレクト・インジケーター、インプット・インジケーターの明るさは変化しません。

ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を短押し (1秒未満) すると、現在の明るさを表示します。

明るさを表示しているあいだに、更にディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を押し、明るさが下図のように変化します。



消灯を選択すると、OFFの文字が数秒表示され、その後に表示が消えます。

この設定は、電源を切ってもフラッシュメモリーに記憶されます。

(2) パワーメーターのホールドタイム設定

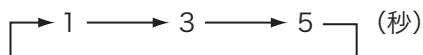
M-200のパワーメーターは設定時間内で、最も大きな出力 (W) を表示します。また、この設定時間ごとにパワー表示を切り替えます。

ホールドタイムは1秒、3秒、5秒の3種類の中から選択します。

ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を長押し (約2秒) します。左側の表示窓に“HLd” (ホールドタイム) もしくは“SP” (スピーカーインピーダンス) と表示されます。

ディスプレイ・スイッチを短押し (1秒未満) すると、“HLd” と“SP” が交互に表示されます。“HLd” 表示中に、ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を長押し (約2秒) します。これにより、ホールドタイム設定モードに入ります。

右側の表示窓には、現在設定されているホールドタイムが点滅表示されます。ディスプレイ・スイッチを短押し (1秒未満) することにより、ホールドタイムが下図のように変化します。



設定したい値の表示中に、ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を長押し (約2秒) すると、ホールドタイムが決定され設定モードから抜けれます。

設定したい値の表示中に、そのまま5秒間放置しても、同様にホールドタイムが決定され設定モードから抜けれます。

この設定は、電源を切ってもフラッシュメモリーに記憶されます。

(3) スピーカーのインピーダンス設定

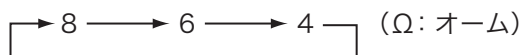
パワーメーターの値をより正確に表示するために設定します。

8Ω、6Ω、4Ωの3種類の中から、接続するスピーカーのインピーダンスに近いものを選択します。

ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を長押し (約2秒) します。左側の表示窓に、“HLd” (ホールドタイム) もしくは“SP” (スピーカーインピーダンス) と表示されます。

ディスプレイ・スイッチを短押し (1秒未満) すると、“HLd” と“SP” が交互に表示されます。“SP” 表示中に、ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を長押し (約2秒) します。これにより、スピーカーインピーダンス設定モードに入ります。

右側の表示窓には、現在設定されているスピーカーインピーダンスが点滅表示されます。ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を短押し (1秒未満) することにより、スピーカーインピーダンスが下図のように変化します。



設定したい値の表示中に、ディスプレイ・スイッチ (DISPLAY) を長押し (約2秒) すると、スピーカーインピーダンスが決定され設定モードから抜けれます。設定したい値の表示中に、そのまま5秒間放置しても、同様にスピーカーインピーダンスが決定され設定モードから抜けれます。

この設定は、電源を切ってもフラッシュメモリーに記憶されます。

接続する前に

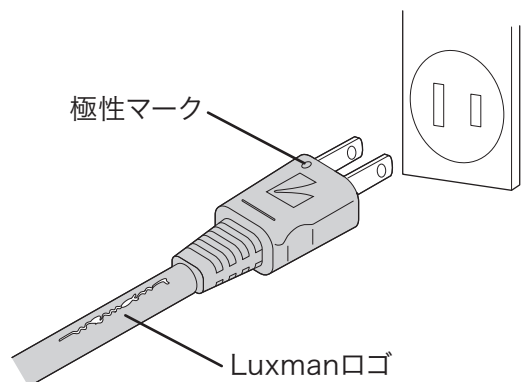
他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック部（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、思わぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源と併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、AC プラグをリスニングルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。ケーブル本体に印字された Luxman ロゴが見えるように（極性マークがコンセントに向かって左側にあるように）AC プラグを差し込むと、電源極性が正しく設定されます。

一般的に AC コンセントは、向かって左側の若干長い穴が接地用端子（W 表記）になっています。



CD プレーヤー、コントロールアンプなどの接続

入力機器の出力端子と本機の入力端子間を L、R2 本のピンケーブルまたは、バランスケーブルで接続してください。

ボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE) は、CD プレーヤーなどの音量調節の機能しない入力機器を使用する場合は、バリエブル (VARIABLE) を選択します。コントロールアンプなど、音量調節機能のある入力機器を使用する場合は、ダイレクト (DIRECT) を選択します。

接続機器に合わせてボリューム・ダイレクト・スイッチ (DIRECT / VARIABLE) を切り替えてください。

スピーカーの接続

(ステレオ接続)

本機の LEFT SPEAKER 端子に左チャンネル用のスピーカーを、RIGHT SPEAKER 端子に右チャンネル用のスピーカーを接続してください。

スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤 (⊕ 側) 端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒 (⊖ 側) 端子に、確実に接続してください。

このとき、左右スピーカーシステムの（どちらか一方の）⊕ 端子、⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカーシステムから再生される信号の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなど、正常なステレオ再生ができなくなりますので、十分に注意してください。

(BTL 接続)

BTL (BTL (MONO)) を選択したとき、本機はモノラル・パワーアンプになりますので、ステレオ再生を行うにはもう一台の M-200 が必要になります。

左チャンネル用 M-200 のスピーカー端子に左チャンネル用のスピーカーを、右チャンネル用 M-200 のスピーカー端子に右チャンネル用のスピーカーを接続します。スピーカーシステムの ⊕ 端子を本機の LEFT SPEAKER 端子の赤 (BTL⊕ 側) 端子に、スピーカーシステムの ⊖ 端子を本機の RIGHT SPEAKER 端子の赤 (BTL⊖ 側) 端子に、それぞれ確実に接続してください。

正常なステレオ再生を行うため、左右チャンネルおよび⊕⊖端子の接続が逆にならないよう、十分注意してください。

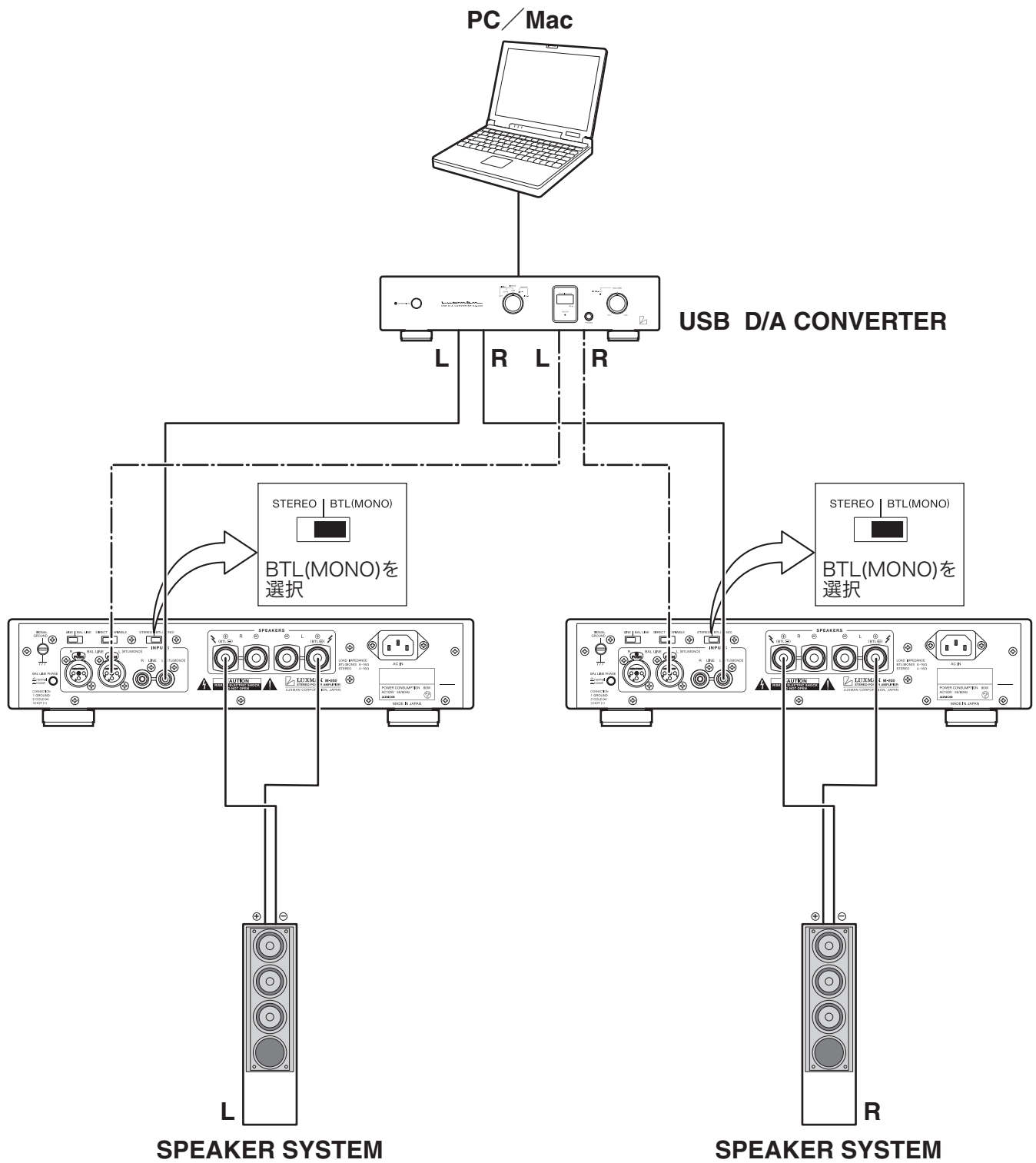
スピーカー切り替えスイッチボックスのなかには、スピーカー端子の⊖側が共通グラウンドに接続されているものがあります。本機が BTL 接続モードの場合、本機の反転出力側がスイッチボックスの共通グラウンドにショートされ過大電流が流れることとなります。保護回路が作動し、故障の原因になりますので、このようなスイッチボックスは使用しないでください。

BTL 接続モードの場合は、直接スピーカー・システムと接続するか、スピーカー端子の⊖側も独立して切り替わるスイッチボックスを使用してください。

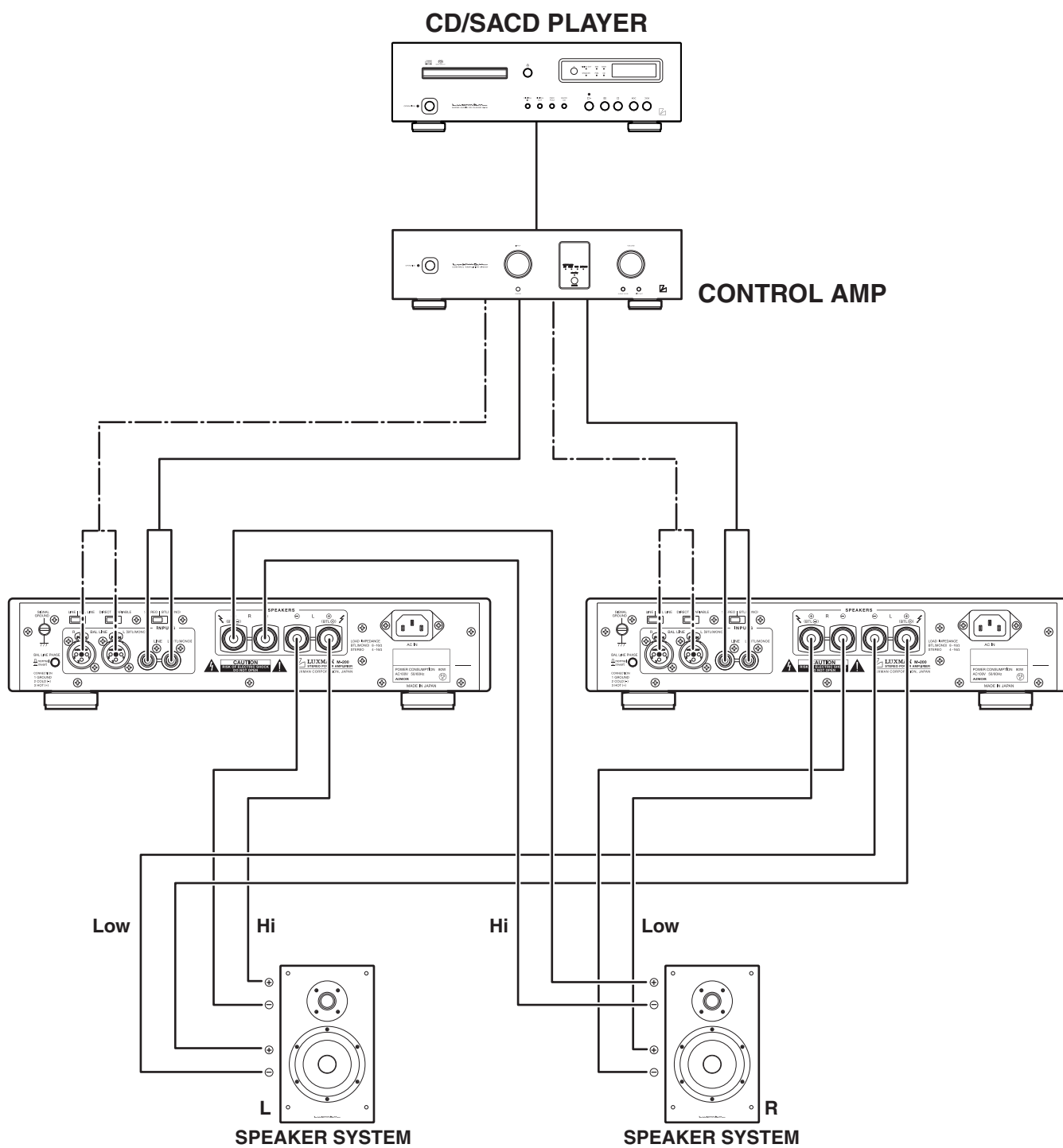
過大入力からアンプとスピーカーを保護するために、本機と入力機器を接続するとき、本機とスピーカー・システムを接続するときは、本機のオペレーション・スイッチをオフにしてください。

接続完了後に正しく接続されていることを確認してから本機を動作状態にしてください。

BTL 接続

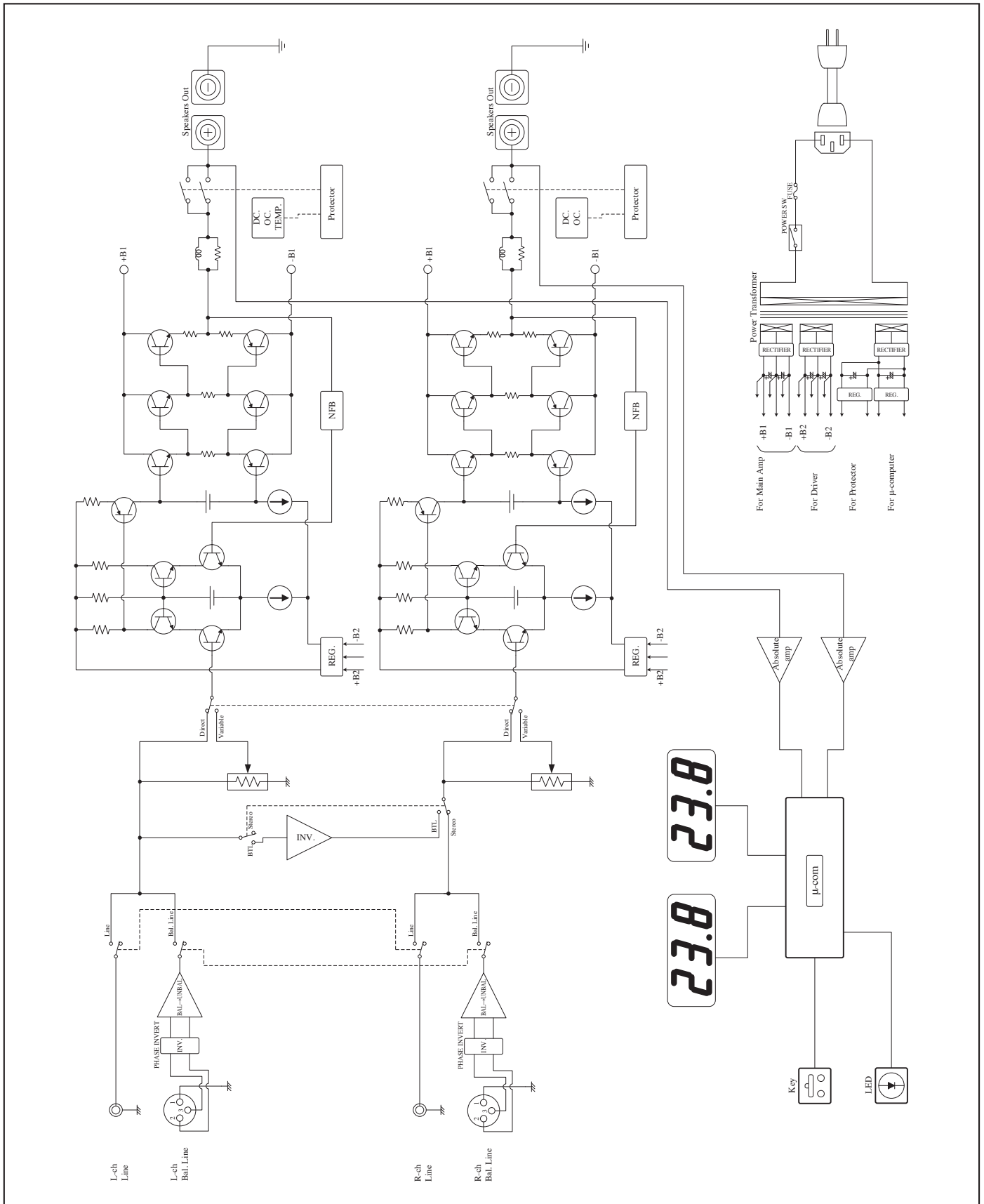


Bi-amp 接続 (一例)



ブロックダイアグラム

luxman
STEREO POWER AMPLIFIER M-200



規格

連続実効出力 (ノーマル)	25W + 25W (8Ω) 35W + 35W (4Ω)
(BTL)	70W (8Ω)
全高調波歪率	0.005% (8Ω, 1kHz, 両 CH 同時駆動) 0.06% (8Ω, 20 ~ 20kHz, 両 CH 同時駆動 (-3dB))
入力感度/入力インピーダンス	LINE : 1V / 16kΩ BALANCE LINE : 1V / 33kΩ
利得	STEREO : 23dB BTL : 29dB
S / N 比	LINE : 107dB 以上 (IHF-A 補正, 入力ショート) BALANCE LINE : 102dB 以上 (IHF-A 補正, 入力ショート)
周波数特性	: 20Hz ~ 20,000Hz (-0.2dB) : 10Hz ~ 100,000Hz (-3dB 以内)
ダンピング・ファクター	: 100
付属機能	<ul style="list-style-type: none">表示窓 パワーメーター (明るさ調節、スピーカーインピーダンス設定、ホールドタイム設定)ディスプレイ・スイッチボリューム・コントロール入力切替スイッチステレオ / BTL 切替スイッチボリューム・ダイレクト・スイッチフェーズ・インバーター
付属品	<ul style="list-style-type: none">電源ケーブル JPA-10000取扱説明書保証登録書安全上のご注意
電源電圧	AC 100V (50/60Hz)
消費電力	80W (電気用品安全法による規定) 30W (無入力時)
最大外形寸法	364 (W) × 81 (H) × 297 (D) mm (奥行きは前面ノブ 11mm、背面端子 28mm を含む)
重量	7.0kg (本体)

※ 規格および外観は予告なく変更することがあります。

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービスセンターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などを戴くことがあります。

症 状	原 因	対 策
オペレーション・スイッチを押しても電源が入らない。	・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。
	・電源プラグが AC インレットから外れているか、確実に差し込まれていない。	・電源プラグを AC インレットへ確実に差し込む。
音が出ない。	・ボリューム・コントロールが最小音量の位置になっている。	・ボリューム・コントロールを右に回して音量を調節する。
	・入力切替スイッチが再生する入力信号の位置にセットされていない。	・入力切替スイッチを再生する入力信号の位置にセットする。
	・接続ケーブルの接続が不完全。	・接続ケーブルを確実に接続する。
	・入力機器の出力レベルが最小になっている。	・出力レベルを調節する。
片側だけ音が出ない。	・接続ケーブルの片側だけが接続されていない。	・接続ケーブルを確実に接続する。
音は出るが、音量が小さい。 片チャンネルだけ音量が小さい。 音像定位がおかしい。 低音が出ない。	・BTL 接続をしているが、ステレオ / BTL 切替スイッチが STEREO になっている。	・BTL 接続をした場合は、ステレオ / BTL 切替スイッチを BTL (MONO) にする。
	・ステレオ接続をしているが、ステレオ / BTL 切替スイッチが BTL (MONO) になっている。	・ステレオ接続をした場合は、ステレオ / BTL 切替スイッチを STEREO にする。
	・コントロールアンプのバランス・コントロールが、片側によっている。	・コントロールアンプのバランス・コントロールをお好みに調節する。
	・LチャンネルとRチャンネルの接続が逆になっている。	・LチャンネルとRチャンネルを正しく接続する。
	・片側のスピーカーシステムの⊕⊖が逆に接続されている。	・左右のスピーカーシステムとも⊕⊖の接続を正しくする。
	・ピンケーブルのアース側が端子に接触していない。	・ピンケーブルのアース側が接触するように確実に接続する。
表示窓が点灯しない。	・ディマー調節が消灯になっている。	・ディスプレイ・スイッチで設定をオンにする。

アフターサービスと品質保証について

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービスセンターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

ラックスマン製品の保証期間は購入日より起算して2年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げの販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。折り返し、保証書を弊社よりお送りいたします。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

修理のご依頼、お問い合わせにつきましては、別紙のサービス情報をご覧ください。

